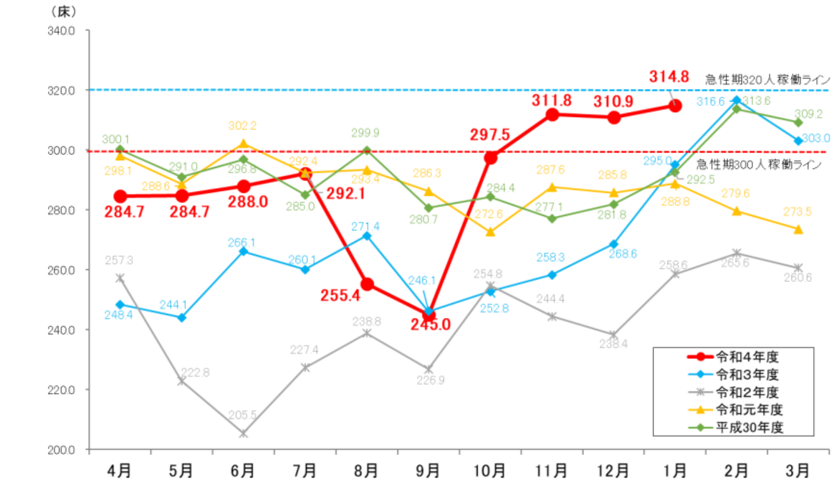
清水病院の経営改善に係る進捗状況について

現状認識について

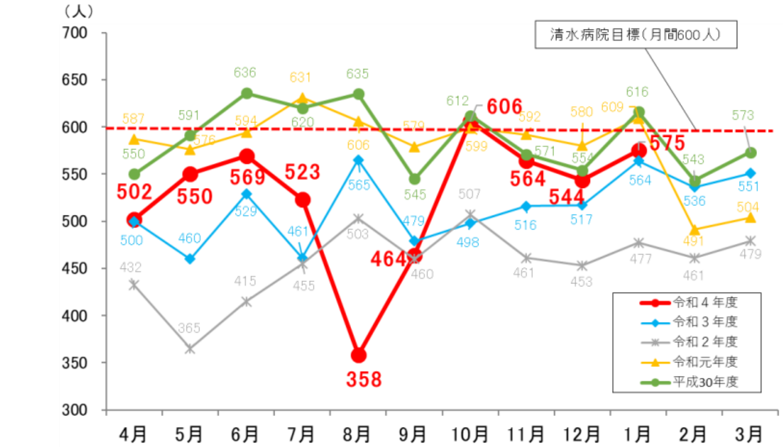
救急隊の搬送依頼応需率の向上により、一般（急性期）病床の稼働は上がっているが、現在の体制（7病棟体制）での受入には限界がある。

①一般（急性期）病床稼働数



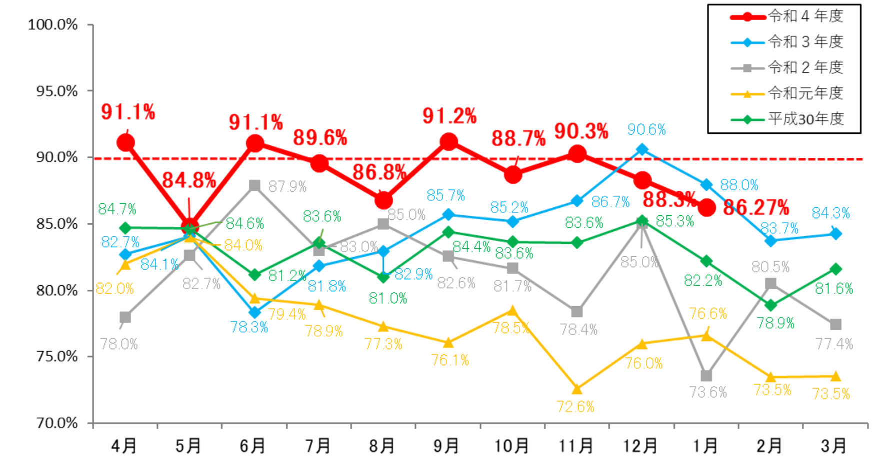
・コロナ感染拡大後、平成30年度、令和元年度実績近くまで回復しつつある。
・急性期320人稼働を見据えると、7病棟体制は限界。
・R5.1月病床使用率**91.5%**、314.8床／344床（７病棟329床+コロナ15床）

②新規入院患者数



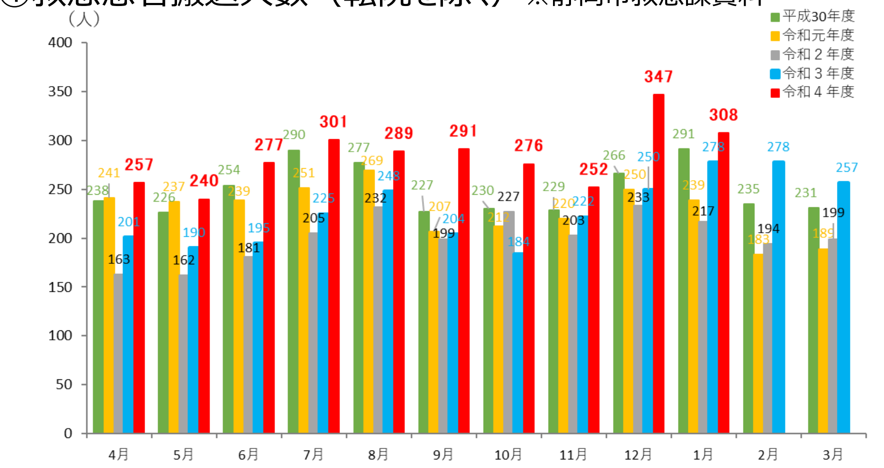
・清水病院では、新規入院患者月間600人と目標設定し、患者獲得に取り組んでいるが、ベッドコントロールの体制が整っていないため、目標に達していない月が多い。

③救急隊の搬送依頼に対する応需率　※静岡市救急課資料



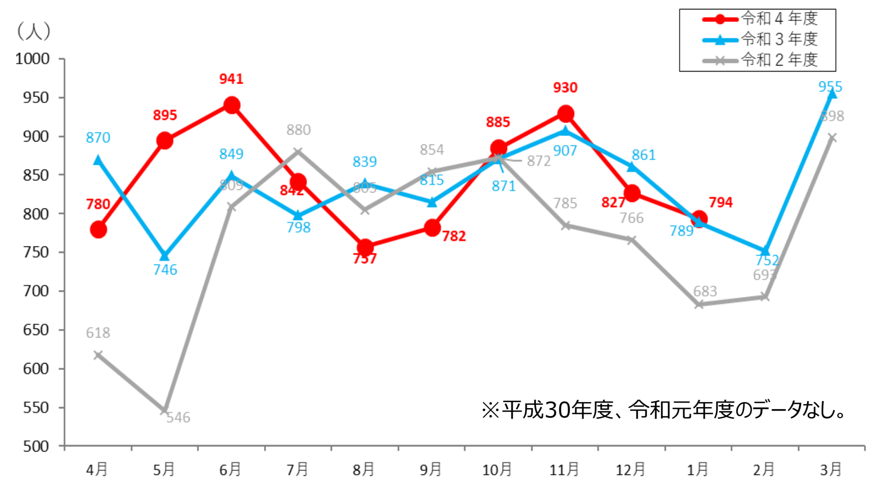
・令和４年度の応需率は、過去最高の水準で推移している。
・しかしながら、令和４年10月以降、受入可能なベッドがないこと等を理由に、受け入れを制限せざる得ない状況となっている。

④救急患者搬送人数（転院を除く）　※静岡市救急課資料



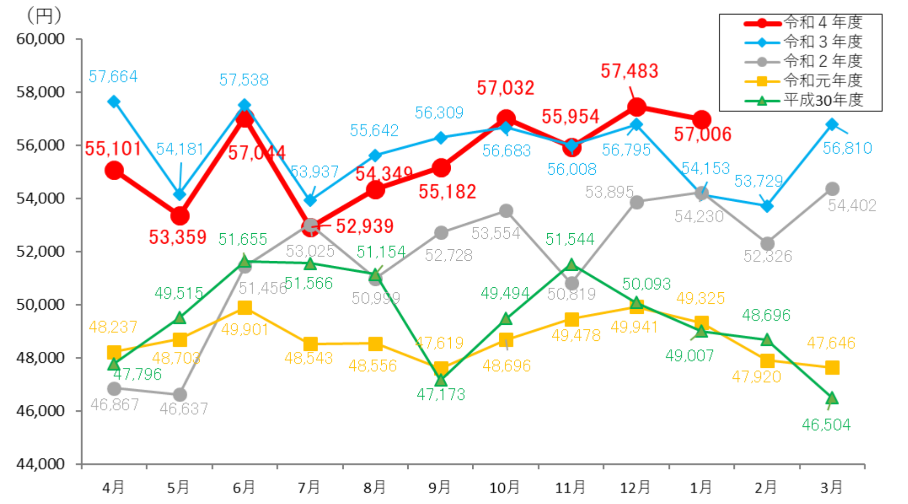
・救急応需の意識が向上したことにより、令和４年度の各月の救急車搬送人数は、それぞれ過去５年間で最高である。
・清水病院のソフト、ハードともに受入の限界を迎えつつあるため、搬送人員の増加は難しい。

⑤病診連携紹介患者数



・クラスター発生月以外はおおむね増加傾向にある。
・コロナや満床状態であったことから、診療所訪問が積極的にできない状況であるが、今後診療所訪問件数を増やし、紹介患者増を目指していく。

⑥入院単価（稼働額）



・入院単価は、10：１看護配置だった令和２年度以前より上昇。
・ただし、７：１看護配置となった令和３年度からは横ばい状態。

⑦令和４年度決算見込み（３条）（２月24日時点）

（単位：億円、税込）

区分	R1	R2	R3	R4見込	前年度差	予算内容
収入計	**126.9**	**121.4**	**133.0**	**137.8**	**4.8**	
うち入院収益	63.8	55.1	61.9	68.3	6.4	
うち国・県補助金	0.1	1.1	12.2	10.5	△ 1.7	産科医確保対策等に対する補助 新型コロナウイルス対策に対する補助
支出計	**126.8**	**121.9**	**125.7**	**131.3**	**5.6**	
うち給与費	66.9	63.8	66.4	68.4	2.1	
うち材料費	22.4	19.7	20.0	22.2	2.2	診療等に要する薬品、診療材料等
うち経費	26.0	25.9	27.5	27.7	0.2	病院経営に要する一般的費用
収支	**0.1**	**△ 0.5**	**7.2**	**6.5**	**△ 0.7**	経常収益－経常費用
実質収支	**△ 18.7**	**△ 22.4**	**△ 20.1**	**△ 17.5**	**2.6**	市補助金及び県補助金（新型コロナ空床補償）を除いた経常収益－経常費用
累積欠損金	**13.1**	13.6	**6.5**	**0.0**	**△ 6.5**	各年度末の未処理欠損金

○　令和４年度における実質収支は△17.5億円（前年度差＋2.6億円）の改善見込。

○　主な要因は入院収益6.4億円増に対して、給与費及び材料費が２億円ずつ増加したことによる。

○　一般会計補助金や空床補償を加えた収支は6.5億円の黒字となり、累積欠損金は解消される見込み。